※令和４年度以降入学生用

学校番号	C4001

令和８年度　地理歴史科

科目	**歴史総合**	単位数	3
使用教科書	「明解　歴史総合」　（帝国書院）		
副教材等	なし		

	前期	後期
単位	1	2
レポート	3通	6通
必要出席回数	1回	2回
テスト	○	○
課題・実習等	メディア視聴学習　あり	

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

この科目では、近現代における世界とその中の日本の歴史について学びます。レポートは教科書の内容から特に重要なところを出題します。まずは教科書をしっかりと読み、それからレポートに取り組みましょう。スクーリングでは、レポートで扱う内容について理解できるように講義を行います。また各範囲に行われるテストは、レポートから出題されます。歴史を学ぶことは、これからの社会で生きていくうえでとても大切なことです。学習を進めるうえで分からないことや、困ったことがあれば、担当者まで相談に来てください。

2　学習の到達目標

①近現代における様々な課題について、歴史的な経緯を理解することができる。
②世界とその中の日本の相互作用、それぞれの独自性、互いの共通性などを理解することができる。
③現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を、因果関係などで関連付けて考えることができる。
④資料を活用して、社会的事象を多面的、多角的、批判的に考察し、自分の考えを適切に表現することができる。
⑤近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身につける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・近現代における様々な課題について、歴史的な経緯を理解することができる。 ・世界とその中の日本の相互作用や、それぞれの独自性、互いの共通性などの諸点を理解することができる。 ・文献や絵図等の資料を有効に活用することで、社会的事象を一面的ではなく、様々な角度から捉えることができる。	・現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を、時期や推移などに着目して、因果関係などで関連付けて考えることができる。 ・歴史に関わる事象の意味や意義、特色、事象相互の関連を多面的・多角的に考えることができる。 ・資料等を適切に用いて、歴史に関わる事象について考え、まとめたことを効果的に説明することができる。	・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身につけている。 ・歴史を学ぶ中で、平和的で民主的な世界、地域、国、社会を形成していく当事者としての自覚をもって考える態度を身につけている。

- 学習指導要領(第１章第７款の４)に則り、ラジオ・テレビ放送その他の多様なメディアを利用して行う学習による面接指導時間数の免除(面接指導の時間数のうち 10 分の６以内の時間数を免除)の制度を活用する。
- 学期末に５段階で評価する。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

範	単	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	江戸時代の日本と結びつく世界	・アジアの中の江戸幕府 ・成熟する江戸社会 ・清の繁栄と結びつく東アジア ・アジア・アメリカに向かうヨーロッパ	a:17～18 世紀の世界交易における物や人の動きと、それに伴う各地域の社会の変化について、正しく理解することができる。 b:図等から 17 世紀の世界の貿易状況を考えることができる。 c:歴史を学ぶ意義について考え、主体的に学習に取り組むことができる。	R S T	R S T	R S 視聴学習
	欧米諸国における近代化	・イギリスの革命とアメリカの独立 ・フランス革命～ヨーロッパ近代化の幕開け～ ・フランス革命の影響と国民意識の芽生え ・産業社会で変わる社会 ・イギリスの繁栄と国際分業体制	a:18 世紀から 19 世紀における、市民社会と国民国家形成および資本主義と「世界の一体化」の進展による国際分業体制確立についての経緯を理解できる。 b:産業社会の影響などに着目してアジアと欧米との関係の変容を多面的・多角的に考え、まとめて示すことができる。 c:産業革命による生活や環境の変化について、主体的に考えることができる。			
	近代化の進展と国民国家形成 アジア諸国の動揺と日本の開国	・1848 年～近代ヨーロッパの転換点 ・イタリア・ドイツの統一とロシアの近代化 ・アメリカの拡大と第2次産業革命 ・帝国主義と世界の一体化 ・「西洋の衝撃」と西アジアの変化 ・南・東南アジアの植民地化	a:19 世紀後半の欧米における国民国家形成の展開について、正しく理解することができる。 b:帝国主義の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などについて資料を活用してまとめることができる。 c:帝国主義政策が、その後の社会にどのような課題を生み出したのかを主体的に考えることができる。			
後期	アジア諸地域の動揺と日本の開国(後半)	・ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争 ・黒船の来航と日本の対応 ・新体制の模索と江戸幕府の滅亡	a:西洋諸国の進出から、明治維新に至る日本の政治・経済・社会の変容の過程を正しく理解することができる。 b:産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響に着目して、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などをまとめることができる。 c:西洋とアジア諸国の関係、日本の開国に至るまでの経緯に関心をもち、主体的に学習に取り組むことができる。	R S T	R S T	R S 視聴学習
	近代化が進む日本と東アジア	・新政府の誕生 ・近代国家を目指す日本 ・日本と清の近代化と日清戦争 ・列強の中国進出と日露戦争 ・日露戦争が与えた影響	a:新政府の誕生によって、日本の政治や社会のあり方がどのように変化したのかを正しく理解することができる。 b:資料を活用し、日露戦争の原因と結果、そして当時の人々の戦争に対する考えをまとめることができる。 c:日清・日露戦争について、昔の事象として捉えるのではなく、自身のこととして考えることで、現代における紛争等の課題解決のために考える態度をみにつける。			
	第一次世界大戦と日本の対応	・ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張 ・総力戦となった第一次世界大戦 ・ロシア革命と大戦の終結	a:第一次世界大戦前の国際関係を理解することができる。 b:第一次世界大戦下において、戦闘員・非戦闘員・植民地の人々がそれぞれどのような思いをもって戦争に協力したかを考え、まとめることができる。 c:第一次世界大戦について主体的に考えることで平和的で民主的な国家形成者として自覚をもつことができる。			
後期	国際協調と大衆社会の広がり	・ヴェルサイユ体制の成立 ・東アジアの民族自決の行方 ・中東・インドの民族自決の影響 ・ヨーロッパの復興と大衆の政治参加 ・大衆社会の出現とアメリカの繁栄 ・日本における大衆社会の形成	a:ヴェルサイユ条約が結ばれた経緯と、ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序がどのようなものであったのかを理解することができる。 b:国際連盟はどのような目的でつくられたか、どのような課題があったかを考え、まとめることができる。 c:第一次世界大戦後の社会において、大衆の運動や平和のための取り組みなどを主体的に理解し、平和とはなにか民主的な世界とはどのようなものかを考えることができる。	R S T	R S T	R S 視聴学習

※令和４年度以降入学生用

	日本の行方と第二次世界大戦	・世界恐慌が与えた影響 ・ファシズムの台頭と拡大 ・政党政治の断絶と満州事変 ・日中戦争の始まり ・第二次世界大戦の展開 ・戦局の悪化と被害の拡大 ・第二次世界大戦の終結とその惨禍	a:世界恐慌の発生から、第二次世界大戦の勃発、枢軸国の敗戦までの経緯を正しく理解することができる。 b:国際関係、世界経済、マスメディアと世論などを資料等を活用して様々な角度から考察し、第二次世界大戦についてまとめることができる。 c:第二次世界大戦が現在の社会においてどのような課題を生み出したのかを考察し、その課題とどう向き合うべきかを自分なりの言葉で表現することができる。			
	再出発する世界と日本	・戦後の新たな国際秩序 ・冷戦の始まり ・日本撤退後の東アジア ・日本の改革と独立の回復	a:冷戦及び冷戦構造の形成と国際連合を中心とした国際平和協力について、正しく理解することができる。 b:資料等を活用して、国際連盟と比較をしながら国際連合の特徴を考え、まとめることができる。 c:日本の民主化政策を主体的に学ぶことで平和で民主的な世界とはどのようなものかを考えることができる。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度